

令和3年 飼料用米「てんたかく81」栽培こよみ

高岡農林振興センター氷見班
JA氷見市営農販売課

■栽培のポイント

- ①栽培期間の葉色を4.0以上に維持し、粗玄米単収600kg以上を確保
- ②主食用米に準じた雑草・病虫害防除の徹底（特に斑点米カメムシ類）
- ③主食用米との明確な区分管理
- ④堆肥施用による土づくりの実施（地力維持）

月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
時期			5/5頃		6/25	7/17	8/22	
生育			田植え	幼穂形成期		出穂期	成熟期	
水管理			深水	浅水		飽水管理 湛水管 理		
主要作業	<ul style="list-style-type: none"> ○種子消毒（テクリードC水和剤） ○浸種、催芽 ○播種（箱当たり播種量120g） ○苗箱施薬剤を施用（ルーチンブライト箱粒剤） 	<ul style="list-style-type: none"> ○栽植密度70株、必要苗箱数20箱/10a ○適期に除草剤を処理（別表②参照） ○適正基肥量の遵守（別表①参照） 	<ul style="list-style-type: none"> ○溝掘り、中干しを行い、地耐力を確保 ○適宜、除草剤を処理（別表②参照） ○葉色が4.2を下回る場合は直ちに追肥（窒素1.0～1.5kg/10a） 	<ul style="list-style-type: none"> ○畦畔草刈の実施（カメムシ対策） ○出穂後20日間は湛水管理 ○1回目防除…ラブサイドキラップ粉剤DL（4kg/10a） ○地域一斉防除に準じて防除 	<ul style="list-style-type: none"> ○2回目防除…ビームスタークル粉剤5DL（4kg/10a） ○乾燥・調製施設、コンバインの清掃を徹底 ○成熟期の7日後を目安に収穫（立毛乾燥する） 	<ul style="list-style-type: none"> ○出荷にあわせた計画的な籾摺り ○定期的な籾水分や保管状況を確認（品質低下を防止） ○100kg/10aを必ず施用し、耕起（稲ワラの持出分を補給） ○ワラ回収する場合は、牛糞堆肥1.5tとケイ酸質資材 		

■別表①【10aあたり施肥量】 ※土壌条件や生育状況により施肥量を加減する。

施肥体系	基肥		穂肥	
			1回目（出穂25日前）	2回目（出穂15日前）
分施	LP555-1号 (N:15%)	25～35kg	追肥3号:10～13kg	追肥3号:10～13kg
基肥一発	LPs早生専用 (N:22%)	35～43kg	葉色が4.2未満の場合 追肥3号:7～10kg	—

■別表②【雑草防除体系例(10aあたり)】

	登録農薬名	使用量	使用時期
体系是正剤	シリウスエグザ1 ^キ 粒剤	1kg	移植同時～ノビエ2.5葉期まで [移植後30日まで] ※他の剤あり
中期剤	アクシズMX1 ^キ 粒剤	1kg	移植後7日～ノビエ4.0葉期 [収穫45日前まで]
後期剤	クリンチャー1 ^キ 粒剤	1kg	移植後7日～ノビエ4.0葉期 [収穫30日前まで]
	バサグラン粒剤	3～4kg	移植後15～50日 [収穫60日前まで]

※雑草の発生が十分に抑制できないと予想される場合は、早めに指導機関に相談する。

令和3年 飼料用米「やまだわら」栽培こよみ

高岡農林振興センター氷見班
JA氷見市営農販売課

■栽培のポイント

- ①立毛乾燥による経費削減のため、5月5日までに田植えを行う。
- ②栽培期間の葉色を3.8以上に維持し、粗玄米単収700kg以上を確保
- ③主食用米に準じた雑草・病害虫防除の徹底（特にいもち病、紋枯病）
- ④主食用米との明確な区管理（作付ほ場の固定、機械・施設の清掃を徹底し混種を防止）
- ⑤堆肥施用による土づくりの実施（地力維持）

月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
時期		4/25~	5/5		7/12	8/5	9/30	
生育		田植え			幼穂形成期		成熟期	
水管理	種籾準備 3.0kg/10a		深水	浅水		飽水管理	湛水管理 出穂後20日間	出穂後積算気温 1300~1350℃が目安
主要作業	<ul style="list-style-type: none"> ○比重選の実施（硫安2.5kg/水10ℓ） ○浸種、催芽 ○種子消毒（テクリードC水和剤を使用） ○播種（箱当たり播種量120g） ○苗箱薬剤を施用（ルーチンブライト箱粒剤） 	<ul style="list-style-type: none"> ○栽植密度50（中山間は60）株、必要苗箱数15~18 ○適正基肥量の遵守（別表①参照） ○適期に除草剤を処理（別表②参照） 	<ul style="list-style-type: none"> ○溝掘り、中干しを行い、地耐力を確保 ○適宜、除草剤を処理（別表②参照） ○葉色が4.0を下回る場合は直ちに追肥（窒素1.0、1.5kg/10a）し、3.8以上を維持 	<ul style="list-style-type: none"> ○畦畔草刈の徹底（カメムシ対策） ○地域一斉防除に準じて防除 	<ul style="list-style-type: none"> ○1回目防除：ラブサイドキラップ粉剤DL（4kg/10a） ○2回目防除：ビームスタークル粉剤5DL（4kg/10a） ○出穂後20日間は湛水管理 	<ul style="list-style-type: none"> ○出穂後7日後を目安に収穫（立毛乾燥する） ○乾燥・調製施設、コンバインの清掃を徹底 ○定期的な籾水分や保管状況を確認（品質低下を防止） ○出荷にあわせた計画的に籾摺り ○100kg/10aを必ず施用し、耕起（稲ワラの持出分を補給） ○ワラ回収する場合は、牛糞堆肥1.5tとケイ酸質資材 		

■別表①【10aあたり施肥量】

※土壌条件や生育状況により施肥量を加減する。

施肥体系	基肥		穂肥	
			1回目（出穂25日前）	2回目（出穂15日前）
分施	LP555-1号 (N:15%)	25~30kg	追肥3号:10~13kg	追肥3号:10~13kg
基肥一発	LPss晩生専用 (N:22%)	35~43kg	葉色が4.0未満の場合 追肥3号:7~10kg	-
	BBやまだわら3052 (N:30%)	25~30kg		

■別表②【雑草防除体系例(10aあたり)】

※ベンゾビシクロン、メソトリオン、テフリルトリオンを含まないものを使用する

	登録農薬名	使用量	使用時期
体系	ウイナー1 ^キ 粒剤51	1kg	移植同時~ノビエ2.5葉期まで [移植後30日まで]
是正剤			※他の剤あり
中期剤	ブイゴールSM1 ^キ 粒剤	1kg	移植後15日~ノビエ3.5葉期 [収穫60日前まで]
後期剤	クリンチャー1 ^キ 粒剤	1kg	移植後7日~ノビエ4.0葉期 [収穫30日前まで]
	バサグラン粒剤	3~4kg	移植後15~50日 [収穫60日前まで]

※雑草の発生が十分に抑制できないと予想される場合は、早めに指導機関に相談する。